

あたりまえのことを あたりまえに 品位を含めた品質の追求

株式会社エフテック
代表取締役社長

福島 鉄雄 氏



送電線工事などを手掛けていらっしゃいます。沿革を教えてください。

1952年に私の祖父が「これからは電気の時代」と、富山市で電気工事の福島組を創業しました。来年で65周年を迎えます。街中に木柱を建てる仕事から、次第に発電所と変電所を結ぶ送電工事も請け負うようになり、関西電力、北陸電力の指定業者となりました。現在は鉄塔建設を含む送電線工事が主で、最大50万ボルトの電気を送

るインフラ整備も担っています。送電線工事は電気を止めて行うため、電力需要が落ち着く秋に仕事が集中します。仕事の少ない時期を埋めるため、電電公社（現N T T）の通信線の仕事もやろうと1981年、福島電話通信工事（現アクセス）を設立しました。現在は通信各社の通信線工事や携帯電話の基地局の設置など行っています。業界の状況はいかがですか。

この業種の北陸の会社数は50年

前からほぼ変わっていません。山の中の高さ50m以上の鉄塔に上り、送電線に命綱だけで作業する特殊な仕事のため、大手ゼネコンでもできませんし、新規参入も無いのが現状です。これまでの実績と信頼、またライフラインを守っているという自負で継続している会社ばかりです。

ただ、2000年に電力小売りの一部自由化が始まると、全国の電力会社が一斉に設備投資を控えて仕事量が激減し、10年以上ととも厳しい経営環境が続き、全国の同業者の中には廃業したり、リストラをして電工数は激減しました。窮地をどう乗り越えたのですか。

送電工事にこだわらず何でもやりました。そのため新たに生まれ変わるつもりで当時、福島電工だった社名を、2004年にエフテックに変更しました。

高所作業のノウハウを生かして公共施設の展望台の窓掃除を請け負い、また出張に慣れているということで、精密機器工場のクリーンルームの設置・配線工事に全国さらには海外へ行きました。とにかく社員の雇用を守るためにできることは何でも挑戦しました。

果敢なチャレンジ精神です。

私にとって24~40歳までの富山青年会議所での学びが大きかったです。様々な活動の中の研修や、異業種の人との繋がりから、色々な事に挑戦する考えが育ちました。少しでも「できそうだ」と思ったら、一生懸命挑戦します。「できません」と言っているのは危機からの脱出は無理です。

ヘリ工法で特許

そうした考えから生まれたのがヘリ工法です。山中の鉄塔組立工事にはクレーン車も入れないので、



作業者の負担が大きく危険です。何とかならないかと、ヘリコプターを使っての鉄塔の組立・解体を、試行錯誤を繰り返しながら関西電力と朝日航洋の3社で開発し、2005年に特許を取得しました。これは電力会社にとってはコストを削減でき、私たちに安全です。

現在、全国の鉄塔工事で採用され、当社が作業をしています。仕事は安定的にあるのですか。

これまで鉄塔には寿命という考えがありませんでした。しかし、ある事故をきっかけにして、経産省が鉄塔の寿命を調査したところ、この先数十年間更新しなければならぬ鉄塔がたくさんあることが分かりました。ところが全国に24万基あるのに対して、搭上作業できる人間は3,500人しかいません。秋の工事集中時には人手不足も相まって、忙しくしています。人材不足に関しては、現在の業種も頭を悩ませています。

大きな災害時はもちろん、降雪による停電など、復旧のため山の中に出かける事があります。私たちはライフラインといわれる電気を守るため、レスキュー隊のような仕事をやっている自負があります。しかし、社会からはほとんど認知されていません。離職率が異常に高いのも業界の特徴です。

そこで、一昨年からテレビコマーシャルを流し、社員の家族を含め、世の中に「すごい仕事をして

いる人がいるんだ」と認知してもらおうと同時に、社員自身にも「絶対必要不可欠な仕事」と受け止め、誇りをもって仕事をしてもらいたいですし、使命感を持ってライフラインを守らなくてはならないと思っています。

定着率を高めるために行っていることはありますか。

全社員が外部のコンサルティングを定期的に受けています。ちょっとした不満でも、人にしゃべる事で少しは気持ちが軽くなり、また会社で頑張れる。コンサルティング会社からは全体的な不満の内容をフィードバックしてもらって、少しでも職場環境を良くするように改善に努めています。

また、レクリエーション大会やバーベキューなどで、コミュニケーションの場を作っています。今年社員旅行で海外にも行きましたが、参加率は90%でした。

「できない」は言わない

会社方針として「エフテックブランドの確立」を謳っています。ブランドに込めた思いとは。

仕事が増えたとは言え、厳しい経営環境が続いており、お客様には支持し続けてもらえるようになってはなりません。

ヘリ工法のような技術的な提案に加え、お客様にも喜んでもらえるような仕事の創造にも注力しています。またそのためにも社員の人間性を重視しています。まずは

略歴

1961(昭和36)年1月、富山市生まれ。83年東洋大学経済学部卒。東亜電気工事(株)勤務を経て、84年福島電工(株)(現(株)エフテック)入社。2001年7月から代表取締役社長。

挨拶ができるようになること。完成した鉄塔に違いはなくても、作業中のどの過程を見られても「エフテックなら安心だ」と言われる仕事をしたいと思っています。社員が挨拶をしなかったり、電話応対が悪かったりすると、私は社会の中のオヤジとして厳しく叱ります。挨拶がちゃんとできる人は、大概のことはできるものと考えているからです。

座右の銘を教えてください。

私は「あきらめの悪いヤツ」です(笑)。「できない」という言葉が嫌いで、どうやったら・どこに行ったら・誰に聞いたらできるかと考えてきました。おかげで幹部は「できない」と即答はしませんし、部下から「できない」と言われると、できるよう指導してくれているようであります。



送電線上での作業風景

会社概要

株式会社エフテック

創業：1952(昭和27)年
所在地：富山市吉岡627番地
資本金：2,000万円
事業内容：送電線設備工事、地中線設備工事、電気設備工事、一般土木工事
従業員数：60名
売上高：約9億5,000万円
事業所：富山支店
関連会社：(株)アクセス、(株)ビジネスマップ
U R L：http://www.ffa.co.jp